

## F—23 実践家政学の対象について

新潟県立新潟女短大 柳原 文一

1. 家政学ことに実践家政学は何を研究しようとするのか必ずしも明確にされていない。被服なのか，食物なのか，家庭の経営なのか。さらに実態なのか。技術(手段・方法)なのか。これを明らかにしようとした。

2. 思弁による。

3. 実践家政学の対象は家庭を維持・向上させるための家庭経営の技術であると思う。ただ経営の技術だけでなく，被服，食物等の調製・管理，育児等々の個々の技

術をも含めた体系的技術である。しかし個々の単位技術は固定したものでなく、情勢に応じて入れかわる。従来は被服、食物等の科学・技術が対象であると考えていた人が多かったようであるが、これは誤りであると思う。家庭経営技術の体系は情勢に応じて改変しなければ用をなさない。技術は目的と手段の体系であるから、その時機に最もよく目的を達しうる手段体系を選ばねばならない。たとえば最近のように今まで家庭でなされて来た被服の調製や食品の加工が専門職業によってなされるようになれば、当然それらの技術は家庭経営、技術体系から外れることになる。これをそのまま家庭経営技術したがつて家政学の対象としているところに、現在の家政学が職業的技術の追究に走っている原因がありはしまいか。現在は以上のような手工的技術よりも、対内・対外の精神的技術の方が大きな意味をもっていると思う。